



定期的な講習参加で実技を身につけよう！

普通救命講習 (修了証あり)

万が一、人が倒れているところに遭遇した時、あなたは冷静に対処できますか？ いざという時の冷静な判断力と対処法を身につけるためには、定期的に講習に参加し、“身体で覚える”ことが大切です。過去に受講歴のある方も是非この機会にご参加ください。

日時 2014年 **10月25日(土)** 14:00～17:00

場所 **松阪市市民活動センター**

講師 **消防組合消防本部 講習担当者**

定員 **20名** ※定員になり次第締切

参加費 **無料**

受講希望の方は当センターに設置、もしくは、ホームページからダウンロードしたチラシの申込欄に必要事項を記入し、FAX、メールにてお申込みください。お電話の場合は、必要事項を伺いますのでスタッフにお伝えください。



昨年までの普通救命講習の様子

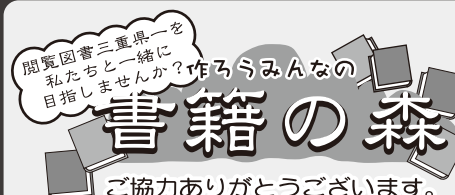


TEL **0598-26-0108**

FAX **0598-25-3803**

メール **katsudou@ma.mctv.ne.jp**

ホームページ **http://www.katsudou.com**



ご協力ありがとうございます。

引き続き書籍の寄贈を募集中です。NPO、ボランティア、まちづくり、NGO、CSR資料

当センターは新たに生まれる市民活動団体に活用していただくため書籍リサイクル運動「書籍の森」を実施中です。あなたの本棚に眠る使用済みのNPO書籍を次の世代に役立ててください。

【募集書籍】

ちょこっと編集後記

8月1日から、会議室、備品などの料金が変更となりました。1か月の周知期間を設けた上での改定でしたので、利用者の理解も得られました。改めまして、今後とも当センターをよろしくお願いします。[S]

次号は2014年10月中旬以降の発行予定です。募集・イベント・事業案内など、共有したい情報をお持ちの方は、「アロマ掲載希望」の件名で「タイトル・趣旨・内容・日時・場所・問合せ先」などをご記入の上、松阪市市民活動センターまでE-mail かFAXにて送付してください。次回の原稿締切は2014/9/30(火)です。担当／澤

松阪市市民活動センター

〒515-0084 三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3F 月曜～土曜日／10:00～22:00
松阪駅下車(JR側)、徒歩5分 カリヨンプラザ駐車場あり(屋上) 会議室利用時間に限り無料 ラウンジ利用は2時間まで無料

TEL **0598-25-3801** ◀予約専用 **0598-26-0108** FAX **0598-25-3803** E-mail **katsudou@ma.mctv.ne.jp**

利用

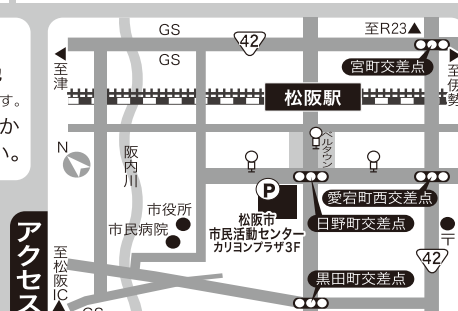
会議室 大会議室……机10 椅子30 (610円) 小会議室1…机4 椅子12 (160円) 小会議室2…机6 椅子18 (210円) 小会議室3…机4 椅子12 (160円) 料金は1時間。大小会議室の組み合わせ可。外会議室……机8 椅子24 (410円)

機材等 印刷機(紙持込) / コピー機 マイク / プロジェクター 他 会議室・機材等はセンターに団体登録されることで利用可能です。

利用申込 申請書類は窓口でご記入いただくか お電話にて予約後、ご提出ください。

情報提供

▼ 松阪市市民活動センターホームページ **http://www.katsudou.com**
▼ 市民活動情報サイト(登録団体の情報、会議室の空き情報) **http://genki365.net/gnkm/customer/matsusaka/**



〒515-0084 三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3F
開館 月曜～土曜日／10:00～22:00

(予約専用) TEL **0598-25-3801**
0598-26-0108

FAX **0598-25-3803**

E-mail **katsudou@ma.mctv.ne.jp**

～アロマ～ **No.54**



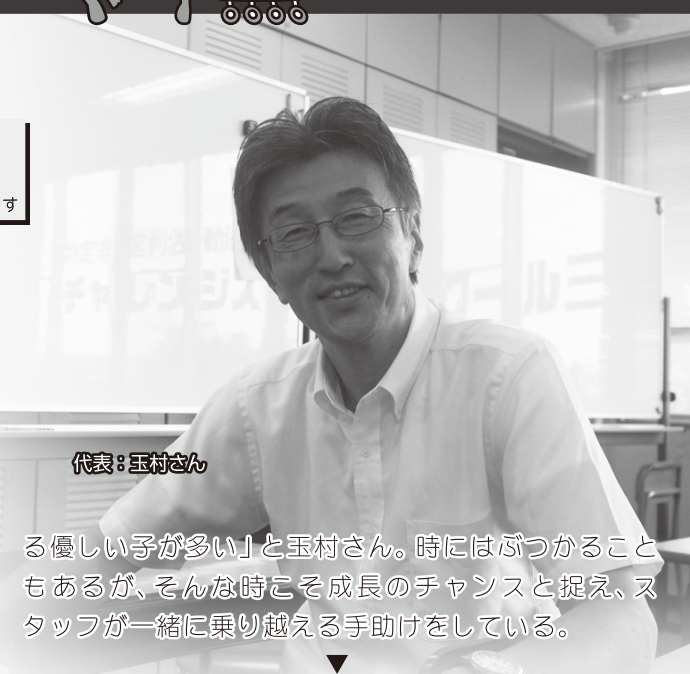
今号は… NPO法人 チャレンジスクール三重 さんです

現 在、県内の高校の不登校生は963名、高校中退者は738名と、その数は依然として多い。対人関係を築くことへの難しさや情緒不安、貧困など様々な悩みを抱える若者が増えているのが原因だ。「チャレンジスクール三重」は、主に高校の不登校生や中退者などのためのスクールだ。理事長の玉村典久(たまむら・のりひさ)さんは、20年以上、高校教員として生徒たちと向き合ってきた。生徒指導に携わるなかで“高校は義務教育ではない”という理由から不登校などに対する公的な支援がほとんどない現状を知る。そこで既存の教育システムの枠から外れてしまった若者の日常的な居場所づくり、高校卒業資格の取得支援を目的に、2005年、早期退職して設立したのがこのスクールだ。



スクールの様子

ス クールには、自分にあったスタイルで通える様々なコースがある。メインとなるのは週4日通う「レギュラーコース」だ。時間割があり、遠足やスポーツ大会、文化祭など学校らしい行事も多い。「学校は、人間成長の場」と語る玉村さん。不登校によって、自分に自信が持てなくなってしまった子は、“安心できる集団”の中で過ごすことが自己肯定感を高めるのにもっとも効果的だという。そこでこのスクールでは、既存の高校生活に近い“学校らしさ”を大切にしている。一方で、教員免許やカウンセリング資格を持つスタッフが少人数制で指導にあたるなど、既存の学校以上に一人ひとりへの配慮が行き届く“安心できる環境作り”にも力を入れている。「ここに通う子どもたちは、同じように悩んだ経験から相手を思いやれ



代表: 玉村さん

る優しい子が多い」と玉村さん。時にはぶつかることもあるが、そんな時こそ成長のチャンスと捉え、スタッフが一緒に乗り越える手助けをしている。

同 法人は既存の通信制高校と連携し、高卒資格取得のための支援をしてきた。しかし、活動を継続する中で、子どもたちに“本当に必要な教育”が十分にできないという課題に直面する。ここに通う子どもたちは、小学校から不登校になった子もいれば、進学校から転学する子もいる。こうした学力の差を、通信制高校の画一的なカリキュラムで補うのは難しい。また「資格を取るだけでなく、“生きる力”も身につけてほしい」と玉村さん。現在、一般的な通信制高校では進路未定のまま卒業する生徒が40%と著しく高い。進路が決まらないまま社会へ出て定職につけず、将来の希望が持てないといった問題も多い。それを防ぐにはキャリア教育を受ける機会が必要だ。そのために同法人が主導できる新たな教育の場が必要となってきたのだ。

こ の課題解決のために同法人では現在、新しいタイプの通信制高校の設置に向けて動いている。廃校になった津市の小学校の一部を借り、再来年の開校を目指す。定員120名で、県域から通学生を募る予定だ。現在、学校設立に向けた支援として寄付やボランティアなどの協力を募っている。子どもたちの未来のために、あなたの力を貸してほしい。

【問】 **0598-42-8174** / **http://www.chmie.jp**

地域力アップ講座 を開催しました



7月9日(水)、「組織の垣根を飛び越えよう！“地域力アップ”講座」を開催しました。講師に、「I I H O E (人と組織と地球のための国際研究所)」代表の川北秀人さんをお招きし、この地域をとりまく現状と、今後、より一層必要となる協働についてご講義いただきました。川北さんの講義はデータに基づいており、落とし込まれたリアルな数字に参加者は釘付けとなりました。数値化することでこの地域の現状も浮き彫りとなり、高齢化などの課題を今まで以上に“自分事”として捉えることができました。地域の課題解決には今まで以上にあらゆる主体(組織)の協働が求められます。この講座の参加者が中心となり、地域課題の新しい解決策が生まれることに期待したいですね。

松阪市市民活動センター

打ち水大作戦2014



今年は女性スタッフは浴衣ではなく、街歩きもできる「松阪木綿」の着物で打ち水しましたよ～

7月23日(水)、“打ち水大作戦”を実施しました。この地域では当センターが主となり、松阪市商店街連合会、松阪市自治会連合会にも賛同いただき実施しています。この取り組みも7年目を迎え、当センターからの呼びかけを毎年楽しみにしていただく自治会もみえます。当センターの打ち水実施日には、自治会長の皆さん、松阪市長も参加していただき総勢18名で打ち水しました。この日までに溜めた約70リットルの“二次利用水”もあっという間になくなり、打ち水後に吹く風が涼しく感じました。今年も多くのメディアに取り上げていただくことができました。テレビ局、新聞各社の皆さまありがとうございました。

TRI 夢・街・人づくり助成金 事前説明会 開催

7月25日(金)、「TRI夢・街・人づくり助成金事前説明会」と「市民活動団体交流会」を同日開催しました。

TRI夢・街・人づくり助成金(※)事前説明会



前半は今年で3年目を迎える助成金事業の説明会を実施しました。助成金初チャレンジの団体にも分かりやすいように、申請書類の読み解き方や記入例などをスライドを用いて説明しました。質疑応答も活発に行われ、説明会後に早速、申請書を記入していただく参加者もみえました。

TRI夢・街・人づくり助成金とは…

初めてでもチャレンジしやすい助成金事業として、松阪に工場を構える東海ゴム工業(株)と当センターが協働で取組んでおり、この地域で活躍中の市民活動団体を資金面でサポートしています。

TRI夢・街・人づくり助成金〈今後の予定〉

- ・8月31日(日) 申請書類提出締切 ※当日消印有効
 - ・審査委員による第1次書類審査
 - ・第2次公開審査(プレゼンテーション)
- 2014年11月16日(日)

市民活動団体 交流会 開催

市民活動団体交流会



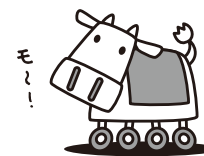
前半の事前説明会の流れを引き継ぎつつ、後半の団体交流会では、地域課題解決のアイデア創出ワークショップを実施しました。「地域に役立つ〇〇万円の使い方」をテーマに、10万円、30万円、100万円、無制限(小切手に自由に金額記入)を各グループに割り振り、予算に応じた企画を出してもらいました。イベント告知や団体アピールタイムも設け、終始和やかに交流が行われました。

「地域に役立つ〇〇万円の使い方」ワークで生まれた企画がコチラ

- 10万円……………ジビエを使ったグルメ企画
- 30万円……………1年間の行事が一目わかる電光掲示板の設置
- 100万円……………地域巡回バスの復活
- 1億円(無制限小切手に記入)…市民が主役の映画製作



本号の市民活動用語解説コーナー「いまさら聞けない? あのコトバこのコトバ」は、誠に勝手ながら、紙面の都合上お休みとさせていただきます。楽しみにしていただいている皆さま、ごめんなさい。



第21回 鈴の音市 会場レポート

平成14年から始まり、今回で21回目を数える「七夕まつり・鈴の音市」。毎年8月の第1土曜日に開催されるようになり、すっかり松阪の夏の風物詩として定着しました。今年は鈴の音市に出店する市民活動団体さんの姿をより多く捉えるため、会場内を自由に動き回って取材しました。鈴の音市当日は接客やステージ出演にどこも慌ただしく全ての団体さんを取材することができませんでしたが、可能な限りコメントをいただきました。お忙しい中、取材にご協力いただいた皆さま本当にありがとうございました。カメラに向けられた皆さんの笑顔が印象的でした。来年も鈴の音市を盛り上げてください



Do it! 松阪鶏焼き肉隊
今年度の「アピールチャレンジ事業：鈴の音市出店補助金」を利用して出展されました。予想以上の売れ行きでイベント終了前に売り切れ状態に。来年は自己財源で出展してより多くの皆さんに鶏焼肉を味わってほしいと思います。
※同団体では街を“展示”するという意味合いから出展と表記しています。



ザ・サークル



アピールチャレンジ事業の一環として作成した支援団体と当センターの合作チラシで告知しました。



まつさかチャレンジドブレス 希望の園

よく知っている曲がカントリー調にアレンジされていて一味違ったイメージで聴くことができました。



和太鼓グループ 響座/いなせ組

響座としては今年で16年目。いなせ組は11年目を迎えます。鈴の音市でのライブを目当てにきてくれる方も多く、このライブが団体にとっての完結(お披露目の場)と、次年度へ向けてのスタートになっているそうです。

ホームページもぜひチェックしてください!

毎年、遊休品(ご家庭で活用されていない品物)を販売して活動資金にしています。



ユニバーサルデザイン「夢現」

昨年の「鈴の音市出店補助金」活用団体さんです。お祭りの楽しさを知ってもらったようで、今回は独自で出店され、街の賑わい作りに貢献されました。



要約筆記サークル オアシス 松阪難聴者・中途失調者の会 ステキなズテーキ

作業所で作ったチャリティ用の自主製品を販売しました。



松阪しょうがい者支援センター ポケットハウス

こちらは一昨年度の「鈴の音市出店補助金」活用団体さんです。こうして翌年以降に独自で出店してもらえると嬉しいですね。

労務相談と原簿ゼロに向けた署名を実施しました。



南勢ユニオン

こちらも一昨年度の「鈴の音市出店補助金」活用団体さん。今年度も独自出店継続です!

あべ静江さんの歌う松阪商店街のPRソングに合わせてダンスをお披露目されていました。市長も赤い法被で参加されていましたよ。



松阪鈴おどり・鈴リン会

身近なCSRを探して vol.26 最終回

主にこの地域に縁のあるCSR(企業の社会的貢献)を紹介するこのコーナー。これまで24の例をご紹介してきました。例えば、「子ども向けイベントで育児中のお母さんを応援する歯科」、「地域住民と一緒に森の間伐に取り組む企業」、「食の安心安全を目指し、生産者と消費者をつなぐレストラン」、「お金の大切さを伝える教室を実施する証券会社」など。業種も活動のジャンルもさまざまですね。CSRというと、未だに大きな企業が行うイメージがありますが、身近な地元中小企業が地域の小さな声(ニーズ)を拾い、地道に取り組んでいる事例がたくさんあります。ある小売店のエコ活動担当者は「一つ一つの活動は小さくても、積み重ねること、その先の大きな社会課題の解決につながる」と、話していました。しかし、一企業の取り組みだけでは成果が出にくいのも事実です。これからのCSRに求められるのは、地域住民・NPOなどと企業の有意義な連携です。このコーナーは、今回で終了となりますが、あなたのまちにある「身近なCSR」に関心を持ち、機会があれば参画してみてください。きっとこのまちのことがもっと好きになるはずですよ。